



1_時速40^{km}で走る車と衝突。車の上に乗り上げられるスタントマン 2_乳母車をおす歩行者とオートバイの接触事故。停車している車の死角になって、お互いが見えていなかった

大迫力の再現スタントで 事故の怖さを高校生に伝える

交通事故を未然に防ごうと「自転車交通安全教室」(JA愛媛たいき農業協同組合主催)が11月25日、内子高校で開かれました。この教室は交通事故の再現をして、生徒に危険性を疑似体験させる「スケアードストレート」という教育手法で行われます。

まず大洲警察署の二宮幸仁署長が、「交通事故の怖さを肌で感じて、交通ルールを守ることの大切さを再確認してほしい」とあいさつ。自転車と車の衝突事故やトラックの内輪差による自転車巻き込み事故など、実際に起きた交通事故をスタントマンが再現しました。再現した後は、どうして事故が起きてしまったのか、どうすれば事故を防ぐことができたかなどを生徒たちに質問して、正しい自転車運転の方法などを教えていました。山本雄基さん=内子高校2年=は、「迫力のある再現スタントで交通事故の怖さが伝わってきた。通学のときなど、しっかりと交通ルールを守って事故に遭わないようにしたい」と話しました。



水をとらえる感覚を教える松田さん(中央)

夢と一流の技術を子どもたちに オリンピックメダリストの水泳教室

競泳元日本代表・松田丈志さんの水泳教室が11月20日、フィットネスクラブRYUOWで開かれ、町内外の小・中学生50人が参加しました。松田さんは自身の練習法を紹介し、足や腕の上手な使い方を教えたほか「努力を重ねたら必ず成果がでる。夢を持ち続けて」と語りました。参加した松本麻衣さん=内子中2=は「今の自分に満足せず、上を目指したい」と目を輝かせました。



南予博の舞台となった各市町の長らが駆け付けた

南予地域のさらなる発展を願って 「えひめいやしの南予博2016」が開幕

「えひめいやしの南予博2016」(同実行委員会主催)の開幕記念イベントが11月20日、宇和島市南予文化会館で開かれました。南予博の舞台となった南予の9市町と伊予市の住民らが集結。住民グループによる成果発表や有識者による討論会などが行われました。最後に、地域一丸となって南予の魅力発信を約束する「いやしの南予」を各市町の長らが宣言して、締めくくりました。

地域の伝統を絶やさぬために—— 学生と住民が力を合わせた秋祭り

愛媛大学法文学部と協力し、地域の伝統文化を残す取り組みをしている白杵地区で10月30日、「白杵三島神社秋季例大祭」が行われ、学生たちによる「獅子舞」と「おねり」が披露されました。10年以上も途絶えていた伝統芸能で、大学の協力を得た3年前から活動を再開しています。学生たちが夏に行った集落調査のパネル展示もあり、来場者は興味深そうに見学していました。



獅子舞とおねりを奉納した皆さん

満員御礼！ 地域に愛される劇団オーガンスが定期公演

劇団オーガンスの第18回定期公演「學問のススメ」が11月13日、内子座で上演されました。物語は文明開化の風が、片田舎の内子にも吹き始めた明治時代初期。脱藩浪人や外国人が住みついた村で、時代に翻弄される住民の姿をコミカルに描いた作品です。脚本を手掛けた稲月道隆さんは「内子座で最高の演劇ができた。支えてくれた多くの皆さんのおかげ」と感謝の気持ちを述べました。



特別出演したALTのピーターさんも熱演(写真右側)

里山の自然と風景と味覚がいっぱい 自分たちで作って楽しむ手作り市

山の手作り市「きておみや in 立山2016」は11月13日、下立山地区のログ立山周辺で開かれました。地元の食材や手作りにこだわったイベントで、来場者は自分でピザを焼いたり、餅をついて丸めたりして、できたてをおいしそうにほおぼっていました。実行委員長の宮岡正博さんは「地域の人たちの楽しみになっているので、無理をせず、1回でも長く開催したい」と話しました。



「よいしょ、よいしょ」の掛け声で餅をつく子どもたち

秋色に染まる会場で、さまざまな実りを披露 「東自治センターまつり」

落ち葉が舞い散る内子東自治センターで11月20日、恒例の「東自治センターまつり」が開かれました。老人会のクロッケー大会や自治会対抗で行う究極の玉入れ大会の他、「愛媛よさこい神舞」の踊りや「雛太鼓」の演奏など、さまざまな催しがありました。石畳自治会の焼き芋や長田自治会のうどんなど、各自治会のバザーも人気で、終日多くの人でにぎわいました。



消防署のはしご車で会場を一望しよう